

TG-PRESS

APRIL 2019

成長しよう、自分らしく。

4年間の目標は、学力だけに留まらず「自分の強み」を伸ばすこと。
それはたとえば、コミュニケーション能力や行動力、グローバルな視点……。
卒業した先輩たちのように、TOGAKUで自分らしく成長しよう！



TOPICS ▶ P.5 世界とつながる、春

連載 ▶ P.12 今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

「自分らしさ」を高める 4年間の過ごし方

3/20（水）に行われた平成30年度の卒業式では、それぞれに成長を遂げた414名が新たな世界へ羽ばたきました。先輩たちは4年間でどのように自分を磨き、目指す進路へと進んだのでしょうか。卒業生の中から5名にインタビューを行い、TOGAKUで自分らしく成長するためのヒントを探りました。



JUNPEI HARADA

**英語教諭を目指し、1年次から猛勉強
イギリスへの短期留学にもチャレンジ!**

中学の担任の先生に憧れて英語教諭を志望し、大学入学と同時に教職課程を履修した原田さん。「特に教職教養は出題範囲が広く、早く勉強を始めないと間に合わないから」と、1年次から教員採用試験の対策テキストに取り組んだり、学内の「自主ゼミ」に参加するなど、授業外でも意欲的に学びを深めました。

また、2年次の夏にはイギリス・スウォンジー大学への短期留学プログラムに参加。現地で語学や文化に触れた経験



教育実習や学外プロジェクトなど、リアルな現場体験も成長につながった

は、のちの教育実習でも役立ったようで、「留学中の写真を見せながらイギリスの紹介をしたら、生徒たちに興味を持ってもらえました」と振り返ります。

授業で印象に残っているのは、大西泰斗教授の「Progressive English」。ネイティブの考え方や自然な英語を学ぶことができ、相手にわかりやすく教えるための参考にもなったそうです。

3年次には千葉県教育委員会が実施する「ちば!教職たまごプロジェクト」にも自主参加。研修先の中学校に1年間通って授業や行事を補助し、教師のやりがいや大変さを一足早く体験しました。

授業や自主勉強に加え、学内外の学びの機会をフル活用し、自身の経験値を高めた原田さん。教員採用試験にも合格し、4月から英語教諭として働いています。



原田 純平さん

英語コミュニケーション学科卒業
出身校：千葉県立君津高等学校
就職先：袖ヶ浦市立蔵波中学校

AISHA SATO

海外で働く夢を叶えるために 学部留学&海外インターンシップに挑戦

国際キャリアプログラム (ICP) で1年間の学部留学を経験した佐藤さん。留学先のノースアラバマ大学で現地の学生とふれあい、刺激を受けたことで、「語学力はもちろん、時間を有効に使うためのタイムマネジメント力や、物事を広い視野で論理的に考える力、行動力も身につきました」と語ります。

目標は「海外で働くこと」。学部留学後はインドに飛び、現地のIT企業で2ヶ月間のインターンシップを体験。SNSビジネスに携わり、帰国後も同社の日本支社設立に関わるマネジメントを行うなど、大学生活とリモートワークを両立しました。また、特技のメイク技術を活かして休日はメイクアップアーティストとして活動するなど、「大学生」という枠にとらわれず、興味あることに積極的に取り組みました。

「学部留学、海外インターンシップ、国際的なスポーツ大会の通訳ボランティアなど、ICPには自分を高めるチャンスがたくさんありました」と佐藤さん。「大学時



学部留学先では、興味ある分野の「フォトグラフィー」や「女性学」などを履修

代にさまざまなことに挑戦したからこそ、『自分に何が向いているのか』を見極めることができた」とも語る彼女が選んだ就職先は、人材業界のグローバル企業。念願の海外配属も決まっています。



佐藤 会沙さん

グローバル・コミュニケーション学科卒業
国際キャリアプログラム(ICP) 2期生
出身校：千葉県立流山おおたかの森高等学校
就職先：PERSOLKELLY (勤務予定地：インドネシア)

DAIKI JINBA

学生研究会やALPSで思考力と伝える力を磨き 「自分で学ぶ」習慣も身についた！

「大学では行動したものの勝ち!」と語る神場さん。自身も学びに積極的で、2年次からはALPS (英語特別選抜クラス) に所属し、ネイティブ・スピーカー教員のもとで英語力をブラッシュアップ。「実践的な『話せる英語』が身についたのはもちろん、レポート提出など大量の課題をこ

なすうちに『自分で学ぶ力』も自然と磨かれました」と当時を振り返ります。

ゼミは興味を持った「国際関係ゼミ」を履修。国際関係についての学びをさらに深めるべく、学生主体の研究会にも参加しました。研究会ではプレゼンテーションやディスカッションの機会が多く、

「考える力」や「伝える力」が成長したそう。「自分の考えをまとめ、言葉にして人に説明する力や、相手の理解度に合わせて伝える力が身につきました」と語ります。

そのスキルは「卒業論文・卒業制作発表会」でも活かされ、グローバル・コミュニケーション学部の代表の一人として登壇。教員や在学生の前で「世界から見た日本の労働」をテーマに書き上げた卒業論文について発表し、「学生が選ぶ発表賞」と「優秀発表賞」をダブル受賞しました。

そんな神場さんが選んだ進路は塾講師。今後は塾という舞台上、大学時代に磨き上げた能力を発揮していくことでしょう。



ALPSの発表会では英語でプレゼンを実施



神場 大樹さん

グローバル・コミュニケーション学科卒業
出身校：私立勇志国際高等学校
就職先：株式会社湘南ゼミナール



産学連携プロジェクトの一環でLG韓国本社へ

長野県出身の松野さんは、「大学で経営やプロモーションを学び、地元を盛り上げたい」という目標を抱いて現代経営学部に入學。八塩圭子准教授の「マーケティングとメディア研究ゼミ」に所属し、LGエレクトロニクス・ジャパン株式会社（以下LG）との産学連携プロジェクトにも参加しました。

同プロジェクトでは、「LGが有機ELテ

SHOGO MATSUNO

ゼミの産学連携プロジェクトで 将来に役立つマーケティングスキルを習得

レビを日本で売っていくには？」をテーマに学生たちがチームを組んでマーケティング戦略を研究。LG日本本社に加え、韓国本社も訪問し、研究を重ねました。

松野さんのチームは、有機ELテレビが高価格帯であることに着目し、ターゲットを富裕層に設定。松野さんの地元にも近い軽井沢の別荘地にモデルハウスを作り、「LG製品があるライフスタイル」の魅力をターゲットに伝える、という具体性のある戦略を考案・発表し、社員の方からも好評価をいただきました。

「プロジェクトを通じてマーケティングの知識を深められたのはもちろん、チー

ムワークについても学べました」と松野さん。今後は日本郵便の地域基幹職に就き、地元・長野県もしくは新潟県で働く予定。大学での学びを活かし、地域を盛り上げていくことが期待されます。



松野 翔悟さん

現代経営学科卒業
出身校：長野県小諸高等学校
就職先：日本郵便株式会社

HONOKA SAITO

障がいのある子どもをサポートしたい！ 子どもの心理を学び、在学中に資格も取得

高校時代に支援学校のボランティアを経験し、障がいのある子どもの発達支援に興味を持った齊藤さん。「発達心理学を学びたい」と人間科学部へ入学しました。

大学では、目標通り心理学を中心に学



学部イベントで司会を担当するなどリーダー性を発揮

び、在学中に児童指導員や社会福祉主事の任用資格も取得。また、子どもに関わる学外のボランティア活動やアルバイトにも積極的に取り組みました。

印象に残っているボランティアは、千葉県流山市が主催する小学生の宿泊行事「めだかの学校」。小学生グループを引率し、食事の献立作りや調理、イベントなどを補助することで、企画力やリーダー性が身についたそう。そのスキルは学内でも活かされ、学園祭運営局に入って学園祭の企画・運営に携わったり、学部イベントで司会を担当したりもしました。

アルバイト先は、児童発達支援のデイサービス施設。障がいのある子どもそれぞれに対して支援目標を立て、取り組むという実践的な体験をしました。「子どものステップアップに直接関わり、成長の瞬間に立ち会えるところにやりがいを感じました」と齊藤さん。アルバイトを通じて「この業界に進みたい！」という想いを深め、児童発達支援のための放課後等デイサービス施設に就職しました。



齊藤 ほのかさん

人間科学科卒業
出身校：私立つくば開成高等学校
就職先：株式会社PONTE



Global Experience

世界とつながる、春

毎年恒例、春の短期留学プログラムが今年も実施され、合計30名の学生がアメリカ、カナダ、中国で語学力やコミュニケーション力を磨きました。また、学部留学中のICP4期生は、海外生活を満喫しながら学びを深めています。



春期短期留学プログラム

現地学生と交流、生きた英語に触れたアメリカプログラム

約1ヶ月間にわたり実施されたアメリカプログラムには7名が参加。カリフォルニア大学アーバイン校のレベル別英語クラスで学んだほか、現地学生との交流プログラムにも参加し、多彩なアクティビティを楽しみながらコミュニケーション力を磨きました。現地学生が気軽に話しかけてくれたおかげもあり、多くの参加学生が「コミュニケーションに自信がついた」と実感した様子。また、「ダイバーシティを肌で感じ、視野が広がった」、「人の目を気にせず自分らしく生きたいと思うようになった」などの声も聞かれました。



「最初は英語が通じるか不安でしたが、先生やクラスメイトと会話を重ねて自信ができました!」と語る岩葉さん

英語と文化をじっくり学んだ36日間のカナダプログラム

3プログラムの中で最も留学期間が長かったカナダプログラムには11名が参加。期間中は、カルガリー大学のレベル別クラスで英語を学んだほか、マイナス20℃を下回る記録的な寒さのもとでスケートやスノーボードなどのアクティビティにも挑戦しました。

現地ではホストファミリーとともに生活し、「英語でのコミュニケーション力が高

まった」という声も多数。カナダののどかな環境に身を置き、「便利さにあふれる日本との文化比較の好機になった」という感想も多く聞かれました。



路線バスでの個人旅行に挑戦したり、ダンスレッスンに参加するなど、休日を利用して積極的に行動した学生も

現地学生への特別授業にも挑戦! 盛りだくさんの中国プログラム

昨年12月に開催された「鑑真杯 中国語スピーチコンテスト」の入賞者3名も加わり、12名が参加した中国プログラム。浙江旅游職業学院で中国語を学ぶとともに、現地学生と交流したり、中国文化に触れるアクティビティも体験しました。

また、浙江旅游職業学院の日本語学部で学ぶ大学生に向け、学生有志が日本語の特別授業を行うというチャレンジも。特別授業に挑戦した学生からは、「最高の経験になった。『外国語を使う仕事がしたい』という将来のビジョンが見えました」などの声が聞かれました。



現地学生への特別授業の様子。写真の中島さんは、日本で中国人の小学生に日本語を教える活動もしているそう

国際キャリアプログラム (ICP)

アメリカの大学に学部留学中! 千田さんのキャンパスライフ



「自分の夢に向けて、学びたいことを全力で学べる今の環境が最高に楽しい!」と語る千田さん

ICPの4期生は、現在4名がアメリカに学部留学しています。その一人であり、ノースアラバマ大学に留学中の千田美雪さんにお話を伺いました。「日本人が少ない自然豊かな環境で学びたくて、この大学を選びました。私はCAを目指しているので、専攻はホスピタリティやコミュニケーションが中心。授業は週4回あり、毎日3時間くらいかけて予習・復習をしています。興味ある分野なので苦になりません」と学ぶことを楽しんでいるようです。

現地でたくさんの友人を作り、その友人たちのコミュニケーション能力の高さに刺激され、「他人の意見を取り入れながら、自分の意見をよりうまく表現できるようになった」とも語る千田さん。残り約半年の留学期間を通して、さらなる成長が期待されます。



休暇にはホストファミリー宅に滞在。子どもたちと一緒に遊んだり、日本料理をふるまうことも

TOGAKU NEWS

学生たちの活躍や、学校からのお知らせなど
キャンパスライフにまつわるニュースをお届け！

新ロゴマーク

「伝統と飛翔」をテーマに 大学のロゴマークがリニューアル

新年度より本学のロゴマークが生まれ変わりました。東洋学園の創立80周年を記念して制定された旧ロゴマークをベースに、グローバル化・デジタル化が進む時代に合わせたデザインへとリニューアル。凛々しく羽を広げたフェニックス（不死鳥）の姿に、将来へと大きく羽ばたく本学のイメージを投影しました。上を向いたフェニックスの頭は矢印にも見える形で、はっきりとした上昇の意志を表しています。



入学式

満開の桜のもと、平成31年度入学式を挙行 合計733名の新入生・編入生が入学

4/2（火）、平成31年度東洋学園大学入学式が行われ、3学部と大学院の新入生・編入生が入学しました。式では旦祐介学長が式辞を述べ、卒業までに自ら学ぶ力のあるグローバル・シチズンを目指してほしいということ、そのために教職員が全力でサポートすることなどを伝え、新入生らを激励しました。



鑑真杯

暗唱・朗読部門とスピーチ部門で競う 第9回「鑑真杯」中国語スピーチコンテスト

本学と浙江旅游職業学院の共催による中国語スピーチコンテストが、昨年12/8（土）に開催されました。中国語の運用能力を磨き、文化理解を深めることを目的とした同コンテスト。今回は1～3年生まで24名が出場し、2部門に分かれて学習成果を披露しました。



スピーチ部門入賞者

- 1位 鑑真杯 江口佳凜（グローバル・コミュニケーション学科2年）
- 2位 有本一馬（英語コミュニケーション学科2年）
- 3位 中島日菜子（現代経営学科2年）

暗唱・朗読部門入賞者

- 1位 千田愛奈（英語コミュニケーション学科1年）
- 2位 民澤玲奈（グローバル・コミュニケーション学科3年）
- 3位 榊原加奈美（英語コミュニケーション学科2年）

審査員長賞

- 仁部可菜（現代経営学科1年）

※学年は開催当時



グランプリの「鑑真杯」を受賞した江口さん

定期試験応援企画

東学食堂で定期試験応援メニュー 「500円ステーキランチ」を限定販売

昨年12月、学食で1日40食限定の「500円ステーキランチ」を特別販売しました。サーロインステーキにライス、スープ、デザートが付いたランチセットで、少し早めの定期試験応援メニューとして5日間にわたり提供。昼休み前から男子学生を中心に行列ができ、毎日すぐに売り切れとなる大人気でした。本学では今後も、学生を応援する多彩なイベントを実施予定です。



就活サポート

現4年生の就活シーズンが到来! 実践練習や学内企業セミナーを実施

本格的な就活スタートを前にした2/18（月）、本学と二松学舎大学による「合同GD（グループディスカッション）実践・模擬面接会」を開催。プロ講師の指導のもとGDの実践演習を行ったほか、企業の現役採用担当者による模擬面接も行いました。また、3/4（月）～13（水）には「第1回学内企業セミナー」を実施。今年は199社が参加し、中には本学の卒業生が来学した企業も。

延べ約500名の3年生が来場し、企業の方に積極的に質問して情報を集めていました。



プレゼンTOGAKU

社会に出てからも役立つプレゼンスキルを1年次から磨く「プレゼンTOGAKU」

1年次の必修科目「教養基礎演習」の一環として、毎年実施している「プレゼンTOGAKU」。最初に1年生全員が独自のテーマでプレゼンを行い、クラス内で代表者を選出、代表者は学部ごとの全体会で登壇します。昨年12月に行われた全体会では、データや調査などをもとにした説得力あるプレゼンを披露し、聴衆を惹きつける学生が続出。社会問題への提言や提案をする学生も多くみられ、レベルの高い大会となりました。



現代経営研究会

さまざまな業界・企業の経営者が講演 生きた経営ノウハウを学ぶ「現代経営研究会」

現代経営学部と大学院現代経営研究科が共催する「現代経営研究会」。2018年度は、KDDIやエアウィーヴ、星野リゾートなど一流企業の経営者を講師に招き、全6回の講演を実施。学生・教員および一般参加者を含む多くの方々にご来場いただき、盛会のうちに終了しました。2019年度も秋頃からの開催を予定しています。



学内イベント

平成最後の学園祭は、前年を上回る大盛況！ 体育祭やクリスマス会も開催

昨年10/13（土）、14（日）に開催された「第26回東洋学園大学フェニックス祭 郷郷祭り」は、前年を上回る1,600人以上の来場者を迎えて大盛況となりました。2019年の学園祭は10/19（土）、20（日）に開催を予定しています。また、昨年11/24（土）と12/8（土）には学生会運営部・体育祭運営局が主催する秋の体育祭を開催。12/14（金）には学生会運営部主催のクリスマスパーティーも行われ、楽しいひとときを過ごしました。



今年の学祭もお楽しみに！

2018年学園祭運営局のメンバー

表彰者紹介

学生たちの優れた取り組みに対して 理事長賞や学長賞、学部長賞を授与

本学では、学業はもちろん資格試験や大会などで優秀な成績を収めた学生を表彰しています。今回の受賞者は以下の通りです（順不同）。

理事長賞

情報化社会ゼミ（新国立競技場建設定点観測プロジェクト）

学長特別賞

原田純平（千葉県・千葉市公立学校教員採用選考合格）

学部長優秀賞

猪狩佑典（全日本サーフィン選手権メクラス5位）

渡辺健次（TOEIC IP910点）

ヨウユウハン（TOEIC IP915点）

小松莉奈（関東学生テニス選手権大会女子シングルス準優勝）

霜鳥凌子（保育士国家試験合格）

富岡沙綺（心理学検定1級合格）

人間科学部2・3年生8名（心理学検定2級合格）

保住 和（TOEIC940点）

学部長奨励賞

戸室梨々奈（フィギュアスケート東インカレ6級7位）



情報化社会ゼミ

公開講座（リベラルアーツ）

今年から本郷キャンパスで新規開講！ 一流講師・文化人に学ぶ公開講座

学問領域にとらわれない幅広い教養（リベラルアーツ）を一流の講師に学ぶ、少人数制の公開講座を開講します。5～8月の期間で全4回を予定しており、どなたでも参加できます。社会人として知識や人脈の幅を広げ、人生を豊かにする学びに参加してみませんか。

開催時間：19:30～21:00
開催場所：東洋学園大学 1号館
受講料：通し券（全4回分）2,000円
1回券1,000円

講座スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 5/7（火） | 遊びの流儀～遊楽図の系譜～
講師：石田佳也氏（サントリー美術館学芸部長） |
| 6/18（火） | 共生社会への歩み：多文化社会ハワイから得られる学び
講師：加藤恵理専任講師（東洋学園大学） |
| 7/23（火） | 渋沢栄一の「論語と算盤」で未来を拓く
講師：渋澤健氏（コモンズ投信株式会社 取締役会長／シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役） |
| 8月（調整中） | 「はやぶさ」プロジェクトがわれわれの生活・将来にもたらすもの（予定）
講師：宇宙航空研究開発機構（JAXA）職員（予定） |

リベラルアーツ

アートに触れ
視野を広げる！

グローバル・コミュニケーション学科

ワンアジア財団助成特別講座が 盛況のうちに全14回の講座を終了

2018年度のワンアジア財団助成特別講座「アジア共同体への新しいアプローチ『一帯一路』構想はアジアに何をもたらすか」が、盛況のうちに全14回の講座を終了。今期は一般の方々と在学学生、ともに約100名の申し込み・履修登録がありました。本講座は2015年度から続く特別講座の第4弾で、アジアの政治、経済、社会などの第一人者を講師として招き、公開講座として開講。今年度も秋学期に開講予定です。



国際キャリアプログラム (ICP)

ICPの1年生が学外研修を実施 日本初公開作も展示されたフェルメール展へ

「応用英語II-2B」(松本美千代教授)を履修する国際キャリアプログラム(ICP)の1年生が、昨年12/14(金)に上野の森美術館でフェルメール展を鑑賞しました。同展は国内外で人気の高いオランダ出身の画家・フェルメールの作品を集めたもの。学生たちは実物のアートに触れ、授業内で英語で学んだ作品分析と英語の音声ガイドを比較しながら、熱心に作品を鑑賞していました。

英語コミュニケーション学科

坂本ゼミの有志学生が 小学校や保育園で英語活動を実施



昨年10/12(金)、「児童英語教育ゼミ」(坂本ひとみ教授)に所属する学生有志9名が福島県須賀川市白方小学校を訪問し、英語活動を実施。小学1～3年生向けの授業では、ゼミの「卒業協働プロジェクト」の

題材であるレオ・レオニ作の絵本『スイミー』をテーマにした英語指導や、全員参加型の英語劇を上演しました。このほか、保育園や学童クラブでも『スイミー』をテーマにした英語レッスンを行いました。

英語コミュニケーション学科 現代経営学科

シェイクスピアの喜劇『真夏の夜の夢』を 翻訳&上演する合同プロジェクトを実施

英語コミュニケーション学科の「翻訳研究ゼミ」(松本美千代教授)と現代経営学科の「アーツマネジメントゼミ」(今井克佳教授)は、シェイクスピアの戯曲翻訳&上演を目指す合同プロジェクトの第2弾を実施。昨年12月にはプロの俳優2名を招き、松本ゼミが制作した翻訳台本を朗読していただきました。俳優の方からは言葉選びのアドバイスや演技に関する意見もいただき、貴重な機会となりました。



人間科学科

マンガから日本文化の意識表現を学ぶ！ 増満ゼミがマンガミュージアムで学外研修

「社会と人間ゼミII-3」(増満圭子教授)の4年生が、2月に京都国際マンガミュージアムにて学外研修を実施しました。同ミュージアムは、マンガ資料の収集・保管・公開、マンガ文化に関する調査研究、展示・イベント等を行う施設。ゼミ生らはマンガ資料を閲覧し、日本文化における意識表現や作品内に描かれた心象風景について分析を行いました。



人間科学科

塩谷ゼミの学生らが児童養護施設のもちつき大会にボランティア参加

昨年12月末、東京都にある児童養護施設「こどものうち八栄寮」で開催されたもちつき大会に、「心理・カウンセリングゼミ」(塩谷隼平教授)のゼミ生らをはじめとした学生21名がボランティア参加。子どもの付き合い係やもちのつき手などを手分けして担当しました。



食と健康への関心を高めるきっかけに！ 「学生の食生活応援プロジェクト」を開催

昨年11月、現代経営学部が中心となって「学生の食生活応援プロジェクト2018」を実施しました。今回は、「マーケティングとメディア研究ゼミ」（八塩圭子准教授）が産学連携プロジェクトを実施したご縁から、日清食品（株）とのコラボが実現。同社の人気商品「カレーメシ」とミニサラダの無料ランチセットを1日60食限定で3日間にわたり在学生に配布しました。



プロジェクトマネジメント×総務省による 「働き方改革ディスカッション」が実現

昨年12/19（水）、本庄加代子准教授のプロジェクトマネジメント講義にて、学生有志14名と総務省職員行政評価局総務課長の箕浦龍一氏、総務省若手職員7名による「働き方改革」に関するディスカッションが行われました。当日は、「働き方改革は本当に機能するのか」をテーマにグループディスカッションを行った後、代表者による討論（ディベート）を実施。総務省の方からは「学生さんの議論レベルの高さや発想力に驚いた」、「新しい刺激になった」などのコメントが聞かれ、有意義な時間となったようです。



TOGAKU2020プロジェクト

学内のオリパラ機運を高め、スポーツボランティアを応援！

東京オリンピック・パラリンピックに向けて学内の機運を高め、学生ボランティアを輩出するべく、「TOGAKU2020プロジェクト」を実施中の本学。昨年の学園祭でポチャ体験会を行ったほか、11月には「TOGAKUオリパラボランティア応募相談会」を開催、12月には政治社会学会と本学オリンピック・パラリンピックボランティア推進委員会が合同でオリパイベントを行いました。最近では自発的にスポーツボランティアに挑戦する学生も増えてきています。



第27回流山ロードレース大会（10月）



ロードレース大会では荷物整理などを担当

出席管理システム

出席確認を スマホアプリで簡単に！

スマートフォンアプリを使って出席を管理する新システムが、4月から大学の全学年・全授業に導入されました。今後は、教室入室時に自動表示されるアプリ画面を確認するだけで出席確認が完了します。



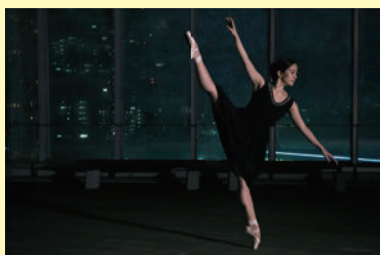
グランプリ
受賞しました！



自彊不息写真コンテスト

創立92周年を記念した「自彊不息写真コンテスト」を開催

建学の精神『自彊不息』（じきょうやまず）をテーマに、TOGAKU生が「自分を高めるために一生懸命汗をかき、日々積み重ね努力をしている姿」、「輝いている瞬間」を表現した写真コンテストを開催しました。厳正な投票の結果、アルバイト中の光景を題材にした中島大志・島根郁弥さんがグランプリ、クラシックバレエを題材にした渡辺健次・山崎紗代子さんが準グランプリに輝いたほか、3作品が特別賞を受賞しました。



作品名：The silent sound



作品名：笑顔の輪

TOGAKU生による 公式Instagramがスタート

在学生がTOGAKUの日々を写真で紹介する公式Instagram、@toyo_gakuen_univがスタート。「自彊不息写真コンテスト」の受賞作品もご紹介していますので、ぜひチェックしてみてください。



TOGAKU SPORTS

30を超えるクラブ・サークルが活動し、スポーツにも力を入れているTOGAKU。
新進戦でベスト8入りを果たしたテニス部をはじめ、各団体・個人の活躍をご紹介します！

男女テニス部

女子テニス部が新進戦の本戦で ダブルスベスト8入り！

2/15（金）より開催された「平成30年度関東学生新進テニス選手権大会」（新進戦）本戦に、女子テニス部からシングルス3名・ダブルス1組が出場しました。シングルスに出場したのは、林桃香選手（4年）、山田恵璃選手（3年）、そして本戦初進出の久保田彩夏選手（4年）。山田選手が初戦を突破し、2回戦進出を果たしました。また、ダブルスでは林・山田ペアが準々決勝に進出し、ベスト8入りする健闘を見せました。

昨年11/27（火）～12/2（日）に開催された「平成30年度全日本学生室内テニス選手権大会」では、当時4年生だった



林選手



山田選手

た小松莉奈選手が女子シングルスに出場。全日本学生ベスト8という好成績を残し、大学4年間で締めくくる有終の美を飾りました。

なお、昨年の「関東大学テニスリーグ」では、男子テニス部は3部5位、女子テニス部は3部1位となり、入替戦に挑んだ結果、いずれも3部残留が確定しました。

小暮選手が実業団入り！

2017年度の夏関および新進戦で本戦出場を果たすなど、男子テニス部で活躍してきた小暮友貴選手が、実業団テニス部を持つ三井グループの企業「エームサービス株式会社」に就職。今後は実業団チームの一員としてテニスを続けて行く予定です。



硬式野球部

東京新大学野球連盟の春季リーグが4月に開幕 今シーズンこそ悲願の2部優勝・1部昇格を目指す！



新ユニフォームに身を包み、2019年度春季リーグに挑む硬式野球部。2部に所属する本学は、初戦で日本工業大学と対戦し、松野十三選手（3年）がホームラン2本を放つなど打線が大爆発！投手陣もノーヒットに抑え17対0（7回コールド）で快勝し、2部1位・1部昇格に向けて幸先の良いスタートを切りました。



一方、オフシーズンの昨年12/16（日）には、第6回目となる少年野球教室を開催した硬式野球部。流山クラブボーイズ小学部の皆さんを流山グラウンドに迎え、ともに練習などを行いました。部員たちは、小学生とのふれあいで初心を思い出し、野球への思いを改めて見つめ直す機会ともなったようです。

本学史上2人目の プロ野球選手が誕生！

力強い投球を武器に硬式野球部でピッチャーとして活躍した松永忠選手が、プロ野球独立リーグの「福井ミラクルエレファント」（運営：株式会社福井県民球団）に入団しました。入団会見では「さらに球速アップを図る」と語った松永選手。プロ野球選手としての飛躍が期待されます。



ボランティアや大会出場など 精力的な活動にメディアも注目！

「TOGAKUパラスポーツ」は、パラリンピック競技であるボッチャなどのパラスポーツを行うサークル。昨年7月の創設以来、精力的に活動する姿が注目を集め、毎日新聞や産経新聞、BS日テレなどのメディアからも取材を受けています。

同サークルは競技の魅力を伝える活動にも力を入れており、文京区のスポーツイベントや近隣地域のお祭りにボランティア参加し、ボッチャ体験会の実施などをサポート。本学の学園祭でもボッチャ体験会を行い、約60名の来場者に競技をレクチャーしました。

また、昨年11/18（日）には初の公式戦



左から春原祐弥選手、橋本昂典選手、市川樹伸選手、木村選手

「ボッチャ東京カップ2019予選～大学選手権東日本大会～」に出場。計7チームのうち、車いす選手は本学チームのみの出場でした。本学チームは、ボッチャサークルの発起人でもある部長の木村駿汰選手を筆頭に、市川・春原・橋本選手の4名が参戦。実力を出し切れず悔しい結果となりましたが、他大学のボッチャチーム



ボランティア活動の様子 学園祭でのボッチャ体験会

との交流を通じて、今後の成長に向けて大きな刺激を受けた大会となりました。

フィギュアスケート

戸室選手が東インカレで6級7位入賞！ 本学初のインカレ出場など活躍

昨年11月に開催された「第12回東日本学生フィギュアスケート選手権」（東インカレ）に本学スケート部の戸室梨々奈選手が出場し、女子6級クラスで7位入賞を果たしました。戸室選手は高い技術力と表現力でミュージカルナンバーを演じ、構成点で高得点を記録。初出場ながら46人中7位という好成績を残し、「第91回日本学生氷上競技選手権大会」（インカレ）への出場権を獲得しました。インカレは今年1月に開催。全国から強豪選手が集まる中、戸室選手は25位という結果を残しました。



クリケット

全日本学生選抜代表のキャプテンを務める 富澤選手が香港遠征に参加

世界で人気の球技スポーツ、クリケット。英語コミュニケーション学科の富澤望選手は、全日本学生選抜代表の2018年キャプテンを務めたほか、中央大学のクラブチームに所属して全日本学生選手権に出場、2018年男子日本代表強化選手団にも選ばれるなど、大活躍中の選手です。

昨年9月には、全日本学生選抜代表による海外遠征（香港）が行われ、キャプテンの富澤選手も参加。九龍クリケットクラブとの試合を行い、富澤選手率いる全日本学生代表選抜が勝利しました。



大学スポーツの新たな統括組織「UNIVAS」に本学が加盟

3/1（金）に発足した大学スポーツの新たな統括組織「大学スポーツ協会（UNIVAS：ユニバス）」に本学が加盟しました。同組織は、大学スポーツの価値向上を目的とした競技横断型の組織で、全国197*大学、31競技団体が加盟しています。 ※2019年3月1日時点

大会で躍進を続けるテニス部や、ボッチャの普及に貢献する「TOGAKUパラスポーツ」をはじめ、30を超えるクラブ・サークルが存在する本学。今後はユニフォームのロゴなども統一し、結束力を高めていく予定。「UNIVAS」への加盟を機に、スポーツにさらなる力を注いでいきます。

TOGAKU

今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

最先端のグローバル都市・東京のど真ん中に建つTOGAKUは
旬な題材にあふれる東京を教材として学べる恵まれた環境です。
しかも、「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて
街が激変しつつある今は、東京を学ぶにあたって絶好のタイミング。
この連載では毎回、「東京」をテーマにした各学部の学びをご紹介します。

東京＝旬な題材や学びのタネの宝庫！

Global Economy

Global Business

Inbound Tourism

Community Development

Infrastructure

Vol.4

グローバル・コミュニケーション学部「新国立競技場建設定点観測」

3代目が観測を継承。変わりゆく東京を学び続ける

2016年5月、情報化社会ゼミ(荻野博司教授)の学生がスタートさせた「新国立競技場建設定点観測」。整地から始まり、少しずつ形になってゆく競技場の姿を2週に1回のペースで観測・撮影してきました。その後も学年を超えてリレーされ、昨年9月からは現代都市文化ゼミ(泰松範行教授)の学生にバトンタッチ。競技場完成予定の11月まで観測を続けていきます。

テレビや新聞などからも注目を集める同プロジェクト。学生たちは「2020年に向けて東京の街がどのように変化していくのか」をリアルタイムに目撃しつつ、研究を深めています。



貴重な取り組みにメディアも注目！



競技場の建設はひと段落して、
今は周辺の道路整備が進みつつあります。
この先どんなふうに変わっていくか楽しみです！
(泰松ゼミ4年)

産経新聞
(2018.11/7)で
紹介！



「本プロジェクトは、少し違った角度からオリンピックに関わるチャンス。ゼミでは競技場の建設とともに、2020年に向けた「街」の変化も研究中です」(泰松範行教授)

